



校長室だより

校長 山崎 聡子

力はつながっていく

私が尊敬する方の中に、路上生活をしている方々と食事を共にとる方がおられます。なぜ、そのような活動をしているのか…。それは、その方のご両親がそのような生き方をなさっていたからとのことでした。小学生の頃公園にいる路上生活者の方々に、家で作ったおにぎりを渡すようにとお母様に命じられていたそうです。こわごわと渡すことを行っていたそうですが、路上生活をしている方々が渡したおにぎりをうれしそうに食べている姿を見て、心の中に温かなものが流れたと感じたそうです。その方のご両親は、家に多くの方々を招き入れ、寝食を共にし、他者を受け入れる生活をなさっており、家族以外の人がない日はなかったこと、どんなに忙しくても、相手の話に耳を傾けているご両親の姿を誇らしく思っていたと話されていました。ご両親との生活の中でその方自身も、「人を助けた時に、人は幸せになる」ということを経験しながら実感していったとのことで、教育の現場で、困っている人を助けることのできる人になれるよう、子供たちと向き合っていてほしいと伝えられました。その方は、路上生活者支援の他、鬱病に苦しむ青年の支援罪を犯した人たちの更生支援と幅広く活動されています。ご両親の後ろ姿を見ながら、困り感をもっている方たちのために貢献する力を受け継いでいったのだらうと思います。子供たちに 何に価値をおいて生きていってほしいのか、大人が明確にもって生きていくことの必要性を改めて考えさせられました。

周囲の大人の姿が子供たちに大きな影響を

与えていくことは言うまでもありません。そのことに加えて、実は子供は子供から学ぶことがたくさんあると考えます。子供同士の力がつながり、すてきな動きが生み出されることが日々の学校生活の中に表れてくることが多々あります。例えば、児童会主催の思いやりプロジェクト。全校児童がお互いのことを考えて行動したことが書かれた葉っぱでいっぱいになった、たくさんの思いやりの木が掲示されています。また、1学期に行ったあいさつ運動。児童会が企画し、あいさつ隊の募集をかけたところ、多くの子供たちがあいさつ運動に参加しました。その後もその思いを引き継ぎながら、継続してあいさつを大切にしている子供たちも増えてきていると感じます。福祉・美化委員会では、きれいな学校にすることを目的として、おそうじ隊の募集をかけました。18日(金)に、福祉・美化委員会が常時活動として掃除をしている場所を見に行くと、多くの子供たちが共に掃除をしている姿がありました。思いやりプロジェクトも、あいさつ隊もおそうじ隊も、学校をよりよくしていこうとする思いは同じです。一つの取組が波となって全校児童の笑顔へとつながっていく姿をうれしく思っています。

スマイルウエーブとして、相武台東小学校立野台小学校・座間中学校・座間総合高等学校が取り組んできた内容を発表します。子供たちが主体的に活動してきたことが笑顔の波としてつながり、大きな力を生み出してきたことの発表です。本日案内を配付しましたが11月19日(火)13:45から児童会が学校代表として座間中学校で発表します。ぜひ多くの皆様にご覧いただければと思います